

1787	南山老人一家言	南園惟親	癩差別状況、病因：父母の遺毒伝染・自発、湯治・瀉血批判、食毒＝魚獣肉食、治療は正血養い瘀血を去る
1787	外療手引草	玄玄齋道人	治せず、秘事なり
1793	療治経験筆記	津田玄仙	
1796	生生堂医談	中神琴溪	吐剤・下剤・樟脳で照らし総身に三稜針
1800	療治茶談続編	津田玄仙	血脈悪しく積毒深き人風土により病む
1803	和方一千方	村井琴山	付録「癩病治方印施」容貌も心も悪くなる、不治、病因：遺伝、月水中交合
1803	蘭療方	広川獬	原題ランガレーヘンブック、病因：腐毒・食毒・父母伝承の血毒による
1804	生々堂治験	中神琴溪	薬と刺血
1807	提耳談	当莊庵	悪血
1813	陰証百問	吉益南涯	青洲：生質百癩は不治 年未詳
1814	医療察病考	篠山和順	聖人父子相伝の悪疾を天刑と憎む、浪花にない→水土説、古の天刑病と違、白癩は血脈・天刑・不治、淫欲、乳母血脈
1817	和蘭医方纂要	江馬元弘	血液と鹹液の腐壊、必嗜房事
1817	諸国古伝秘方	衣関順庵	血筋、発症前に灸
1819	成蹟録	中川修亭他録編	吉益南涯治験録：宿疾全治
1829	校正方輿輓	有持桂里	伝尸する、初生の時黒血を出せば予防
1830	医療瑣談	宇井正辰	癩の婚姻拒否、血脈説は疑問だが「世上一体の定説」、告知を慎重に、神方を旧家仏壇より入手
未詳	青州医談	華岡青州	天刑病、難治に灸・出血・温泉など皆効なし、出血は暈倒するまでしても効なく脱状に
未詳	天刑秘録	華岡青州	神仙百中散は百発百中
未詳	三朮附之弁	華岡青州	
未詳	瘍科瑣言	華岡青州	樟脳などで照らし見る
1836	杏林内省録	緒方義夫	高貴の人でも母が賤しい出のために悪疾になる
1843	簡易養生記	沼勇造	理癩新書から肉食禁忌、「癩の一門」、鳥類などを食しての癩は治しやすい
1844	眼療経験治法	森鷗樹園	癩疾眼
1846	医事叢談	山下玄門	都会に少なく山谷間に多、病因山嵐瘴気、天刑病とし治療せず捨置くを批判、病形により治・不治